

川村花菱作「上州土産百両首」は、米国の小説家オー・ヘンリー作「二十年後」が元になっている。が、趣は少し違う。「上州土産百両首」は、兄弟分が再会を約した十年後に、罪を犯してまで、命を賭してまで会いに来るといふ人情劇に仕上がった。二十年後」は、再会を約した親友同士が、二十年後に警察官と犯罪によつて富を得た金満家となつて再会するが、作者は当時のアメリカンドリームを皮肉るように、警察官となつた親友が、あっさり司直の手に委ねてしまう。ウエットとドライ、日米のお国柄の違いが表れている。尚、「上州土産百両首」は昭和八年、六代目菊五郎の正太郎、初代吉右衛門の牙次郎で初演された。

スリの正太郎は、幼なじみのドジな牙次郎と再会する。二人はお互い死ぬ気になつて地道に働き、十年後の今日また会おうと約束をして別れる。田舎の料亭で板前として真面目に働いていた正太郎は、かつての兄弟分と偶然会い、過去をネタに強請られ、思わず……。御用聞きの手下となつていた牙次郎は、正太郎に褒めて貰いたくて、首に百両の賞金のかつた下手人を捕らえようとする。そして約束の日。牙次郎の前に現れたのは、賞金首の人相書きと同じ傷をもつ正太郎だった……。笑いと涙で綴る心温まる男の友情物語。

織田作之助原作の同名小説を、平成四年八月劇団若獅子結成五周年記念公演の折、土橋成男氏に抛り執筆され、以来各地で数十回の上演を重ね、此度新生若獅子の第二回目の公演に取り上げられる。風雲の京伏見寺田屋に嫁いだお登勢。家業を護り、夫に仕え、そして坂本龍馬との出逢いと別れ……。幕末・維新を気丈に健気に生き抜いた寺田屋お登勢の半生記。京都と大坂を結ぶ交通の要所である伏見の船宿「寺田屋」気丈なお登勢は一人でお懸命に宿を切り盛りしている。文久二年四月二十三日。薩摩藩士の同士討があり「おいごと刺せ！」と悲しい叫びを残し、お登勢の腕の中で息をひきとる。……後の世に言う『寺田屋騒動』である。慶応二年一月二十三日。坂本龍馬の努力が実り、薩長連合が決まつた夜、お登勢は「己れの身を焦がして死ぬ蛭のように生きられたら……」と、龍馬を眩しく見つめた。龍馬の『寺田屋遭難』を裸同然の姿で救うお良。激動の幕末史の陰で懸命に生きるお登勢の周りでは、小さな蛭達が命の限り輝いていた。風雲児龍馬の死がお登勢の耳に届いたのは、日本の夜明け前のことである。

公演予定	11月27日(火)	11月28日(水)	11月29日(木)	11月30日(金)	12月1日(土)	12月2日(日)
14時 (テレビ)	14時	12時/16時30分	12時/16時30分	12時/16時30分	12時/16時30分	12時/16時30分
横浜市	横浜市	横浜市	横浜市	横浜市	横浜市	横浜市
横濱市磯子区民文化センター 杉田劇場	横濱市磯子区民文化センター 杉田劇場	横濱市磯子区民文化センター 杉田劇場	横濱市磯子区民文化センター 杉田劇場	横濱市磯子区民文化センター 杉田劇場	横濱市磯子区民文化センター 杉田劇場	横濱市磯子区民文化センター 杉田劇場



川村 花菱



オー・ヘンリー



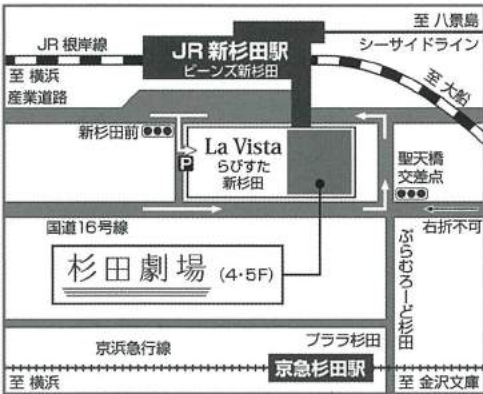
土橋 成男



織田 作之助

美術/岡田道哉
照明/阿部典夫
音楽/園田容子
音響/松竹シヨウビズスタジオ
大道具/ステージフォー
小道具/藤浪アート・センター
衣裳/東宝コスチューム
かつら/太陽かつら店
刀剣/演劇山川小道具店
舞台監督/助川順子

日程に変更がある場合はご了承ください



横浜市磯子区民文化センター杉田劇場
横浜市磯子区杉田1-1-1

- JR根岸線・シーサイドライン
「新杉田駅」下車、徒歩3分。
ビーンズ新杉田2階を抜け歩道橋を渡り、らびすた新杉田へ。入口左手のエスカレーターで4階へ。
- 京浜急行
「杉田駅」下車、徒歩5分。
ぷらむろーど杉田商店街を抜け、らびすた新杉田1階へ。エスカレーターを乗り継ぎ4階へ。

平成31年2月 新生若獅子 プロデュース公演 おおさかバージョン 第II弾

愛川欽也 作
笠原章 脚本・演出

花は紅 染千代一座

浦川ともみ
功刀 明
花浦愛一朗
紫月 光
宮 俊一



草笛 雅子



東 千晃

2月8日(金)~11日(月・祝)

開演時間	8日(金)	9日(土)	10日(日)	11日(月・祝)
	14:00	12:00	12:00	14:00
		16:00	16:00	

楽しくてせつなくて
そしてちょっぴりピュアでセンチな
男と女のラブゲーム

入場料 4,500円 (全席指定・税込)

地下鉄・近鉄日本橋 <大阪>
国立文楽劇場小ホール

笠原 章